
平成 29 年

9 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

新たなブランドづくり

揖斐農林■茶 茶の生産者・販売者向け研修会を開催

農林事務所では、茶生産農家の収益向上のため、多様化する消費者の嗜好に対応する特色あるお茶づくりを支援しており、茶の生産者・販売者向けに2つの研修会を開催した。

9月11日には、静岡産紅茶・中国茶専門店の方を講師として「これだけは知っておきたい！発酵茶 消費者の嗜好と目利きの基本」と題した研修会を開催し、30名が出席した。現在市場に流通している紅茶・烏龍茶等の発酵茶の良否の判断基準や消費者の嗜好などについて、テイスティングを中心とした講義で学んだ。



【発酵茶テイスティング】



【萎凋茶の実習の様子】

9月22日には、製茶機械メーカー職員を講師として「香り高い^{いちようちや}萎凋茶製造の基礎と実習」と題した研修会を開催し、23名が出席した。特色あるお茶づくりの幅を広げるため、萎凋機を用いた香り高い萎凋茶製造の基礎を座学、実習を通して学んだ。

下呂農林■エゴマ エゴマ機能性プロジェクト推進会議を開催

9月25日、下呂市内の御嶽濁河高地トレーニングセンターにてエゴマ機能性プロジェクト第2回推進会議が開催され、農林事務所も出席した。

プロジェクトでは、飛騨地域の特産作物であるあぶらえ（エゴマ）の機能性に着目した品種選抜や運動選手向けの加工品開発など、関係機関が連携した新たな取組みを進めている。

会議後には、トレーニングセンター担当者から東京オリパラに向けた構想や、食堂で試験的に提供しているエゴマ油が選手に人気があるなどの説明を受け、プロジェクトの意義を再認識した。

農林事務所では、「新たなブランド創出支援事業」にて進めている機械化体系の実証状況や生産・販売計画について報告し、今後の現地での取組みを協議した。



【エゴマの新たな可能性に向け議論を交わす】

多様な担い手づくり

農業経営課■飛騨牛 加茂農林高校で子牛の育成技術講義

9月15日に美濃加茂市の加茂農林高等学校で、畜産担当の革新支援専門員が和牛子牛の育成技術について授業を行った。対象は動物の飼育や植物の栽培を学ぶ生産科学科の2年生39名で、岐阜県の農業生産に占める畜産の割合や推定所得、農家戸数、飼育頭数の現状、牛の栄養消化の特徴や子牛の胃の発達等に関する基本知識をわかりやすく解説したが、学生からは「教えてもらった知識や技術を利用してこれからの実習を頑張りたい。」という前向きな意見が聞かれた。

岐阜県の重要な資源である飛騨牛生産を守るためには、若い高校生等が新しい知識を身につけて飛騨牛生産に参入することが必要である。9月に宮城県で開催された第11回全国和牛能力共進会で飛騨高山高校が最優秀賞を獲得したことで飛騨牛に寄せる高校生の関心が高まっていることを好機として、農業経営課では、今後も各種機会を通じて後継者の育成を推進していく。



【加茂農林高校授業】

中濃農林■女性農業経営アドバイザー 武儀地区農業女子の集い開催

9月12日、女性農業経営アドバイザー主催で武儀地区農業女子会が開催され、20代から60代の幅

広い年齢層の農業女子20名が参加した。第一部では6次産業化プランナーを講師に招き、6次産業化と、商品のPR方法（ディスプレイ、POPづくり）について学んだ。第二部では、アドバイザー活動のPRと情報交換を行った。参加者からは積極的に質問があり、大変充実した研修となった。

農林事務所では、今後もアドバイザー活動を通じて、農業女性の活躍を支援していく。



【POPづくり実習】

郡上農林 ■ 定年帰農者 定年退職者向け圃場見学会を開催

9月30日、中濃地域就農支援協議会郡上支部の主催により定年退職者を対象としたほ場見学会を開催した。市役所や県職員等を退職して農業を始めた方のハウスを見学したり、就農の動機などを聞いた。また、関係機関から生産組織や直売所への加入方法や各種支援策を紹介した。

今回、JA広報や電子掲示板を利用して参加募集した所、3名の参加が得られた。参加者からは「退職後に農業を実践している人の話や生産現場を見る事ができて非常に勉強になった」という感想が聞かれた。

この見学会は、農林事務所が企画立案し、関係機関の協力を得て開催した。定年帰農者は多様な担い手として位置づけられており、今回の参加人数は少なかったが、今後の就農に繋がるようアフターフォローをしていきたい。



【ホウレンソウほ場の
視察状況】

東濃農林 ■ 担い手育成 東濃就農応援隊研修会の開催

9月28日に東濃就農応援隊研修会が開催され、就農応援隊14名と各市農業再生協議会など関係機関が出席した。東濃就農応援隊は東濃地域の商工・観光団体、金融機関等で構成されており、昨年度開催された「全国農業担い手サミット」を契機に地域ぐるみで新規就農者や農業者を応援することを目的に結成された。

本年度の研修会は、昨年度開催した研修会のパート2として、“地域農業

を視る”をテーマに、管内の農業生産現場を視察し、地域農業への理解を深めた。視察後には、岐阜大学の前澤教授をコーディネーターに、応援隊それぞれの立場からみた視察の感想を中心に意見交換を行った。金融機関からは、加工品の販売や顧客とのマッチングによる販路拡大ができるのではとの前向きな意見が寄せられた。

農林事務所では今後も就農応援隊の活動を通じて、この地域ならではの農業支援の在り方をさぐり、地域農業の活性化につなげるよう、関係機関と連携して支援していく。



【意見交換会の様子】

西濃農林 ■ 「西濃就農応援隊」応援会議が開催される

これまで西濃地域の就農応援隊は「海津就農応援隊」のみであったが、西濃地域全域をカバーする「西濃就農応援隊」が8月28日に結団され、応援会議が開催された。西濃就農応援隊は、管内市町の自治会、商工会、観光協会等、65団体で構成され、地域全体で就農希望者や新規就農者を応援する体制が整った。当日は、新規就農者からのメッセージの他、6次産業化を主題とした基調講演もあり、県就農支援センターの現地視察も行われた。

農林事務所は、関係機関との情報共有を進め就農希望者に対する就農相談を継続して実施する他、新規就農者の営農定着を推進する。



【就農支援センターでの
現地視察の様子】

売れるブランドづくり

岐阜農林 ■ 岐阜市園芸振興会GAP運営委員会 JGAP先進地視察研修会開催

9月5日、岐阜市園芸振興会GAP運営委員会（だいこん、ほうれんそう、えだまめ、い

ちごの代表役員)は、J Aぎふ、関係市町村(岐阜市、山県市、瑞穂市)の担当者等とともに、揖斐川町の農事組合法人桂茶生産組合を視察し、G A Pの取り組みについて情報収集を行った。

この視察は、生産者及び関係者のG A Pへの理解促進と意識醸成を図る目的で、揖斐農林事務所の協力も得て開催したもので、J G A P認証取得のきっかけや進め方などの話を聞いた後、実際に茶工場で取り組んでいる表示方法などを確認した。参加した役員からは、「片手間ですることではない」「認証を取るなら、真剣に取り組まないと難しい」などの感想が聞かれた。

今後も、農林事務所では、G A Pに関する研修会等を通じて、G A Pに対する意識醸成やステップアップに向けて支援していく。



【視察の様子】

恵那農林■夏秋なす 天敵利用技術の確立に向け「露地ナス IPM 実証調査中間成績検討会」開催

東美濃夏秋なす生産協議会では、安心・安全な農産物生産を目指し、ぎふクリーン農業に登録して化学合成農薬の使用削減に取り組んでいる。

農林事務所では、全国農業システム化研究会と連携し、平成28年度から恵那市内のなす生産ほ場を実証試験区を設置して生物農薬の利活用に向けた現地調査を実施している。

このような中、9月25、26日に同研究会主催による「露地ナス IPM 実証調査中間成績検討会」が管内において開催され、本県と同様に実証調査を実施している3県(栃木県、群馬県、高知県)の調査担当者も出席し、調査の中間報告と今後の課題について検討が行われた。

1日目は、現地検討が行われ、恵那市内の現地実証試験ほ場において農林事務所が実証試験の概要を説明した後、生産者から実証試験ほ場における栽培管理上の変化(農薬使用回数の減少等)について感想を述べ、意見交換が行われた。2日目は、恵那峡グランドホテルにおいて室内検討が行われ、農林事務所は実証試験中の3県の報告とともに、管内現地での調査経過を説明し、農薬使用回数の削減や生産物の品質維持について一定の評価が得られたこと等を報告した。

農林事務所では、実施中の実証試験・調査を今後も継続し、環境への影響を考慮した夏秋なす栽培に取り組む同協議会活動に対する支援を継続する。



【現地検討の様子】

飛騨農林■宿働かぼちゃ 品評会の開催と市場セリPRを実施

飛騨地方の特産物である「宿働かぼちゃ」の今年の出来ばえを競う品評会が9月9日に開催された。13回目を数える今年の品評会には合計102点が出品され、大きさ・揃いのよさ、外観品質などを農林事務所長等が審査した。

入賞した宿働かぼちゃは、11日に高山市公設卸売市場にてセリ販売を行うとともに宿働かぼちゃのスープを振る舞い、地元の仲買、小売などの関係者に売り込みを図った。



【市場セリPRの様子】

住みよい農村づくり

可茂農林東白川村 栽培講習会を実施

東白川村では、都市部の農産物直売所へ村内の農作物を輸送するシステムが今年の7月1日から開始されている。

8月23日には、東白川村園芸振興会主催で、秋植ばれいしょの栽培講習会が開催された。農林事務所にて栽培暦を作成し、事業に登録している会員への説明を行った。

農林事務所では、品質の良い農作物の安定的な出荷に向けて引き続き、村、東白川村園芸振興会、(有)新世紀工房と連携して支援していく。



【説明をおこなう東白川村園芸振興会役員】